

こども通信

新年明けまして

おめでとうございます

新春のお慶びを申し上げます。ご
んなお正月をお過ごしでしょうか。

社会」。子どもの数が増えます。少
なくなっています。

本年もどうぞよろしくお願いいた
します。

年末に発表された政府の推計で
は、昨年の出生数が86万
人台になり、過去最低。



驚きの数字です。
多い時には270万人
の出生がありました(戦
後すぐのベビーブーム。

子どもたちが主人公の年。

今この人たちは高齢になり、「団塊
の世代」と呼ばれています。その

「子」は、もとは繁殖するという

後第2次ベビーブームがあったもの
の、右肩下がりに少なくなり、数年

意味の別な漢字から来ています。新
しい生命が種子の中に育っている様

前に100万人を切ったばかりで
す。一方では死亡数は増加し、人口

子。覚えやすく動物のネズミを割り
当てたようですが、子どもがたくさ

は減少に転じています。

ん生まれるという意味で、ぴったり
ですね。

この極端な少子化は今後の日本に
大きな影響を与えるでしょう。何と

でも、今の日本は極端な「少子化

大きな影響を与えるでしょう。何と

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456
各種ネット予約
www.0255447777.com/i
ホームページ
www.kodomo-iin.com

感染症情報

インフルエンザがすでに大きな流行になりました。新潟県全体に「注意報」が出されましたが、上越地方は「警報レベル」の流行になっています。今後の動向が心配です。例年は1月下旬から2月上旬にかけて大きな流行になります。今シーズンもやはりこの期間はより注意して下さい。

ワクチン接種はすでに済ませておられると思いますが、今後感染することがないように、予防に努めて下さい。

手足口病の流行は先月やっと「警報」が解除され、ほぼ終息した物
のと思います。

感染性胃腸炎の発生が増加中です。冬場に多くなる感染症ですので、
今後注意が必要です。

RSウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症の発生が続
いています。気管支炎、肺炎、喘息発作などをおこす感染症で、伝染
力も強く、集団発生しがちです。園での流行状況に気をつけて下さい。

この他、百日咳の発生も時々見かけています。咳がとても強く、咳
き込んで吐くこともあります。

溶連菌感染症、アデノウイルス性咽頭炎も少しずつ発生があります。
いずれも発熱と咽頭痛が特徴です。溶連菌感染症では的確な抗菌薬に
よる治療が必要です。

風疹や麻疹の発生は当地ではありません。

かならないものでしょうか。
子育て支援などの対策はとられて
いますが、後手にまわっています。
根本には、若い世代の貧困があり
ます。増大している非正規雇用では
結婚し、子どもを生み育てることは
なかなかできません。余裕のある生
活ができるよう、収入増加につなが
る政策こそ必要だと思えます。
2020年が明るいう年になること
を願っています！

今月の予定

院長出務

上越市乳幼児健診 8、22日

上越市夜間診療所出務 15日

上越有線放送 「健康ライフ」19日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～

上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)

インフルエンザ

早くも大流行に

今シーズンのインフルエンザ流行は、どうも違ってきます。例年は12月に流行期入りし、年が明けて1月から2月に大きな流行になることがほとんどです。

しかし今シーズンは10月に流行期入り。そして12月にすでに大きな流行の嵐が襲ってきました。

12月のある週で、当院でのインフルエンザ患者は123人。百人を超えるのは、ピークの時だけ。やはりすでに大流行になっているのです。

現在流行しているのはA型インフルエンザのH1というタイプ。これは2009年に新型インフルエンザとして地上に発生したものの、ブタ由来のこのウイルスは、北米大陸で発生し、半年ほどで瞬く間に世界中に拡がりました。

この新型は、翌年からは通常の季節性インフルエンザになり、毎年流行を繰り返しています。

当時のことを覚えておられるでしょうか。季節性インフルエンザの

ためのワクチンの他に、新型インフルエンザに対するワクチン接種も行いました。ワクチンがなかなか届かなかったり、当院では日曜に接種を行ったりしました。

そしてこの時、国が「新型インフルエンザの診療は隔離した時間か場所で行うように」と指示されたために、急きよ隔離棟（第3診察室）を建設しました。

先月はインフルエンザの急増のため、この隔離棟を大いに使っていました。ちょうど10年前の流行ウイルスが「当事者」だったのは、皮肉な偶然だったのでしょうか。

ともあれ、今後もまだ流行が続く可能性があります。さらにもう一つのA型（H3）や、春先に多いB型が続いてやってくる可能性もあります。十分に注意して下さい。

●異常行動に注意

インフルエンザになって怖いことの1つが事故のおそれです。発熱時に悪夢を見るようで、寝ている場所から逃げようとしています。うなされるだけではなく、部屋の外に出たり、

家の外に飛び出すことも。マンションの上層階からの転落事故や、交通事故の事例もあります。

発熱中はお子さんを一人にはしない。窓や玄関にはカギをかける、窓際の部屋では寝かせない、などの対策をとって下さい。

●治療上の注意

昨年新発売されたゾフルーザは、

耐性ウイルスが発生しやすいということでも子どもでの使用は推奨しないことになりました。

もちろん以前から使っているタミフルなど、他の抗インフルエンザ薬で十分対応できます。

もしかかったら、暖かくして安静にして過ごして下さい。脱水や低血糖にならないよう、水分や糖分は少しずつ摂らせて下さい。

経験的漢方論 (13)

インフルエンザにも漢方！

私の診療の中での話ですが、インフルエンザの治療には漢方薬が欠かせません。病初期の何とも言えないあのイヤな感じ・・・だるさといい、倦怠感といい、他の病気ではなかなか経験しません。まだ高熱になっていないので、ザワザワ、ゾクゾクしてきます。寒気（さむけ）があり、ガタガタ震えてくることもあります。そして次に発熱してきますが、この時には全身の関節痛や筋肉痛、あるいは頭痛も伴います。

こういった症状に対しては、西洋薬は対応ができません。無力といってもいいかもしれません。

例えば解熱剤は体温を下げることはできますが、寒気はとれません。薬は使わず、体を暖めて休んでいることの方が体は楽になります。熱ができたあとで、高熱が辛い時には解熱剤を使うこともあります。でも、いったん体温が下がったあとでまた発熱する時は、同じように寒気に襲われることがあります。

こんな時に、私自身は「麻黄附子細辛湯」を飲みます。インフルエンザに限らず風邪の引き初めの、寒気がしたり、少しだるかったりする症状をよく抑えてくれます。普通の感冒であれば、この漢方だけで乗り切ったことが何度もあります。ずいぶん助けられたような気がします。

体力のない方（女性など）には「香蘇散」もよく使います（我が家の女性陣はみなこれ）。体力があり、高熱でフーフーしている時には「麻黄湯」が良いようですが、小児科ではあまり出番がないかな（赤ちゃんの鼻づまりには良く用いています）。